

平成29年決算予算特別委員会 事業評価シート

②

分科会名	総務教育分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
	一般会計	小学校教育用パソコン事業 中学校教育用パソコン事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ [評価の視点 小中学生とその保護者及び 先生]	①きわめてニーズが高い(25点)	2
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	3
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性 [評価の視点 学校教育の一環でやらねば ならないのか]	①きわめて必要性が高い(25点)	1
	②必要性が高い(20点)	4
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用は適正か [評価の視点 目的外機器を含んだパッ ケージ化した契約は適正か ※費用に見合った効果となっ ていたが、タブレット導入して 1年経過していない為、適正 とした。]	①きわめて適正である(25点)	
	②適正である(20点)	1
	③どちらかといえば適正である(15点)	1
	④どちらかといえば適正でない(10点)	3
	⑤不適正である(5点)	
	⑥きわめて不適正である(0点)	
(4)目標の達成状況 [評価の視点 守谷市情報教育全体計画を 参照頂き、児童生徒の学習 意欲を高め、情報機器に慣 れ親しむ、新しい時代に対 応した教育の実施がされて いるか。]	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	3
	③どちらかといえば成果がある(15点)	1
	④どちらかといえば成果がない(10点)	1
	⑤成果が少ない(5点)	
	⑥成果がない(0点)	

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
20	検索や写真、動画の利用など、学習手段の幅が広がり、意欲のある児童・生徒・保護者にとってのニーズは高い。また、情報端末の普及率は家庭の経済状況によって格差が生じる面もあり、格差の解消も図ることができる。
20	文科省は2020年度からデジタル教科書導入を計画し、現時点ではタブレットを部分的に使うことが適当と提言している。また、児童・生徒3.6人にタブレット1台を配置することを指標としており、市が行う必要性は高いと考える。
10	windowsタブレットである必要があるのか、パソコン教室にタブレットを配備する必要があるのか等の疑問がある。また3Dプリンターが活用されていなかったり、職員室に目的外の機器が導入されているなど、不合理な点も見受けられる。
15	情報活用能力の向上には効果があると考えられるが、学習意欲の向上につながっているかは不明。本事業はスタート後間が無く、今後の検証が必要。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をそのまま転記したもの

分科会評価

3 分科会評価

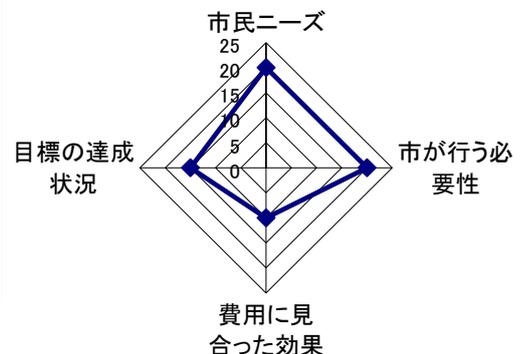
評価	分科会の評価理由
4	タブレットを活用した授業は創意工夫され、児童・生徒がそれらに順応してる授業風景を確認することができたことから、当該事業の重要性を改めて認識した。他方、当該事業の予算には、各種プリンター等、パソコン(タブレット)以外の機器のリース料を含んだパッケージ化された契約であるため、個別機器の費用の適当性が不透明な部分がある。検証を十分に行い不要な部分などの見直しを行うべきと考える。
1	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)
4	5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する
3	4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない

分科会レーダーチャート



費用に見合った効果

課題と反省
・先生方に、タブレット導入後の取り組みや業務負担等、現場の話を聞く機会を設ければよかった。 ・リース契約の詳細について、契約には何が含まれるのかなど、委員会として事前チェックすることが必要だと感じた。

平成29年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
	一般会計	守谷駅前賑わい創出事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別評価数
(1) 市民ニーズ [評価の視点] 市民にとって、開業して8年を経た東口駅前の賑わい創出に寄与しているか	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	1
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	2
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	1
	⑤ニーズが低い(5点)	1
	⑥ニーズがない(0点)	
(2) 市が行う必要性 [評価の視点] 賑わい創出事業として、今後行う必要があるか	①きわめて必要性が高い(25点)	
	②必要性が高い(20点)	1
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	2
	⑤必要性が低い(5点)	2
	⑥必要性がない(0点)	
(3) 費用に見合った効果 [評価の視点] 当初の見込みより歳出があるが、費用対効果はあるか	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	1
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	1
	⑤効果が少ない(5点)	3
	⑥効果がない(0点)	
(4) 目標の達成状況 [評価の視点] 東口駅前の賑わい創出が達成されているか	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	1
	③どちらかといえば成果がある(15点)	2
	④どちらかといえば成果がない(10点)	1
	⑤成果が少ない(5点)	1
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をそのまま転記したものと

分科会評価

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
15	つくばエクスプレス開業時からの歴史的背景を考慮すると、守谷駅前賑わい創出事業として一定の評価が出来る。元々店舗などが少なかった東口駅前においては、これまで根強い市民ニーズが有り、賑わい創出に寄与してきた。
10	市が不動産事業として行ってきた経緯を見ると、長期のリース契約や、賃借料2.7億円の前払い等、財政健全化の視点から外れている。契約解除が更に大きな財政負担を生じさせる事が明白である。
5	これまでの守谷駅前賑わい創出事業の経費として、歳入よりも歳出のほうが多く、その差額を一般財源で賄ってきた。しかし当初の計画では、そのような計画ではなかったことから、費用的には見合った効果と考えるのは難しい。
15	東口駅前の賑わい創出という観点からは一定の目標達成はされたと考える。しかしながら今後のアワーズもりやの運営を考えるならば、経費の歳入と歳出のバランスを熟慮し、事業を進めていく必要がある。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

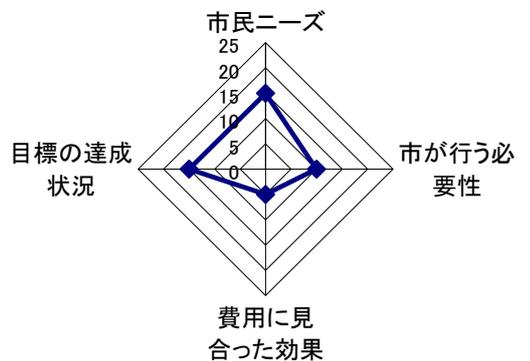
※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
3	つくばエクスプレス開業時からの歴史的背景を考慮すると、守谷駅前賑わい創出事業としては一定の評価はできる。しかし、当初の計画に反して、事業開始からリース期間中ずっと歳入より歳出の方が多く、その差額を一般財源で賄っていることは問題である。また、契約解除が更に大きな財政負担を生じさせることが明白であることも問題である。
1	

分科会提案

分科会レーダーチャート



4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)	課題と反省
4	5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	アワーズもりや建設に関しては、予算措置がないことから議決案件ではなかった。そのため、議会説明の大半は全員協議会での説明であり、当時の議事録がなく、建設過程でどのような話し合いや説明があったのか分かりにくいまま今日まで至った背景がある。今後は、議決案件ではないものに関しても必要に応じ、後世のことも考慮し議事録を作成したほうが良いと考える。
2	4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない	

平成29年決算予算特別委員会 事業評価シート ②

分科会名	保健福祉分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
	一般会計	地域活動補助事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ 〔評価の視点〕 補助事業対象者(市内民間 保育園)14園からみた視点 で記入	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	1
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	2
	⑤ニーズが低い(5点)	1
	⑥ニーズがない(0点)	1
(2)市が行う必要性 〔評価の視点〕 市が補助金を出す必要がある かどうかの視点で記入	①きわめて必要性が高い(25点)	
	②必要性が高い(20点)	1
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	2
	⑤必要性が低い(5点)	2
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果 〔評価の視点〕 活動3事業について実績を 踏まえて記入 ※資料参考	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	1
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	2
	⑤効果が少ない(5点)	2
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況 〔評価の視点〕 市内の保育所が、この事業 により地域に根差した保育所 になっているか	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	3
	⑤成果が少ない(5点)	2
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

分科会評価

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 10	H28年度の実施事業者数をも ても、14園中2園のみの申請となっ ている。 H27年度も9園中2園と利用が少な い状況である。
○ 5	補助金を使わなくても独自で事業 を行っている園も見受けられるた め、行政が補助金を出す必要性は 低い。
○ 10	世代間交流事業、異年齢児交流事業とも、 系列園との事業となっており、また収支報告 書を見ても、育児講座・育児と仕事両立支援 事業については、過去の実績がゼロであり、 世代間交流事業、異年齢児交流事業につい ても使い勝手の良い内容とは言えない状況 である。
○ 10	ほとんどの園が取り組んでいない 状況であることから、目標の達成に は至っていない。

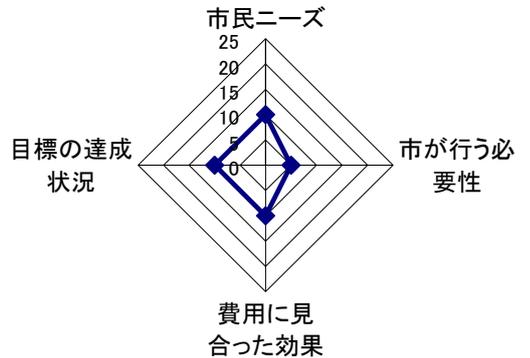
※評価点は人数を考慮して
更に議論、集
約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会レーダーチャート

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由
2	過去の実績をみても実施している園が少なく、行政が行う 必要性は低い。また平成11年度を最後に国の補助事業が 終了し、近隣市をみても廃止となっている。
1	



分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)	課題と反省
1	5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	子育て支援策は必要と考えるが、この事業は廃止し、時 代の ニーズに合った方向で考えるべきである。
予算		今回、実施園1園、未実施園1園との一般会議を 行った。本来は全園の意見を聞くべきであった。
1	4 拡充する 3 継続する 2 縮小する 1 予算措置しない	